

令和7年度八頭町教育委員会 12月定例会 会議録

○日 時 令和7年12月24日(水)午後1時35分～午後2時50分
○場 所 船岡庁舎 2階 第1会議室
○出席委員 小林委員、上島委員、大上委員、谷口委員
○欠席委員 なし

報告

- ・給食費について、無償化と言っているが抜本的な負担軽減ということ。月 5200 円となり、1 食あたり 337 円となる。財源は都道府県にも 1/2 負担を求めると言われている。県負担部分を地方交付税に上乗せするようだが、その分がそのまま増えるわけではない。県の財政負担が増えることになりかねないため、知事会はすぐには了承できない状況のようだ。食材費相当額を補助金として出すものと考えられる。給食費の公会計化を支援条件とはしないとはっきり言われた。公会計化するメリットはないので、今まで通りの方法でやっていく。
- ・教職調整手当が4%から10%に引き上げられることに伴い、業務量管理健康確保措置実施計画の策定が義務付けられた。年度内に作成し、総合教育会議への報告や実績公表が義務付けられ、学校は基本方針を策定し、学校運営協議会の承認を得ることが条件となっている。県のひな形を元に市町村が作成していく。総合教育会議は来年度早い時期に開催することになるかもしれない。
- ・マラソンの通行規制について、今の状態だとランナーの安全確保ができないため、これまでと同様の場合は警察が許可を出せないようだ。ハーフと 10km の部は実施が難しくなるため、開催そのものをどうするか、森下監督も厳しいスケジュールということもあり、今後の開催について体育協会等と考えていく必要がある。

議案

なし

その他

- ・学力・学習状況調査結果について
全国や鳥取県全体と比較した八頭町の調査結果を報告した。
(委員) 子どもにどんな力をつけていくか、色んなことを考えさせられた。
町の様子を見ていいと思ったのは国語の力を持っていることだ。読むことが低めに出ている。読書が好きで環境も整っているのに、どうして読むこ

とに繋がらないのか。普段子どもたちがどのように本を読んでいるか、授業の中でどのように生かされているか、読むことに繋がる授業改善ができたらしいと思う。算数の思考力等や理科も低いことが気になる。国語の力があるのに、なぜ算数と理科でそんな結果が出てしまうのか疑問だ。授業改善とは何か、何を変えていけばそこに繋がっていくのか。問題自体が生活とつながる内容になっている。自分で資料を集め、どの資料がいいか比べ、どうしてそうなるか思考する、そういう授業をしていないと難しいんだろうと思う。学力ってなんなんだろうと考えてしまう。自分は生きる力だと思っている。八頭町の子どもたちは記述式の問題で最後まで諦めない、書ききるという粘り強さ、真面目さがある。逆に八頭町の子どもたちにこれからつけていくべき力は、学力テストでよい点をとることではなく、生きる力として身につけたいのは何かということだ。熟議する場、時間、それにどれだけ多くの人が関わるか。地域の人と関わることについて、それほどいい結果が出ていない。すごく関わっている気がするが、子どもがそう感じていないのはどうしてなのか、それこそが授業改善なのかもしれない。コミュニティスクールも含め、どうやって地域の人と授業の中で関わっていくか。八頭町の中でしっかり議論していくことが必要と感じる。新聞についてもいい結果が出ていたが、日本海新聞 for スタディの取り組みで新聞を読む機会も増えているのかなと思う。境港ではタブレットで家人と一緒に見るという取り組みをしている。タブレットは毎日家に持ち帰っているのか。どんなことをしているか。

(指導主事) 小学校はほぼ毎日持ち帰っている。学校によって違うが、ドリル学習、調べ学習をしている。

(委員) それをもう少し広げていく。他県では音読をタブレットで撮影して送っている。環境を整えているので色々な工夫ができる。子どもたちがこれからの情報化社会の中で活用できるようにしてほしい。6年だけでなく、1～5年の積み上げなので、どんな子どもを育てていかないといけないか先生がよく話しをして、ふるさとキャリア教育、自分の将来を考えるというところまでつなげていく。

(委員) 今回の結果を受けて分析した結果を校内で共有はされたか。

(指導主事) 校長会で話した。船岡小学校は11月に算数週間として、算数の授業実践を公開した。朝昼タイムや宿題の見直しなど学校で行った。

(委員) 指導の結果としての子どもの状況だと思う。鏡だと思う。低学年の先生が見向きもしない、美術担当の自分は関係ないというような傾向があると思うので、実際に先生が問題を解いて、こういう力がないとこの問題は解けないというような実感をして、普段の授業に落とし込んで、継続して始めて身についたかわかる。一連の流れができないと授業改善にならない。文科省は育むべき資質・能力と言っているが、そうしてもらわないといけませんということだ。つけたい力ではなく、身につけさせないといけ

ない力。子どもにそういった力を保障させることが使命。授業している先生方に自負心や使命感を持っていただきたい。

(委員) 直接先生に結果を話したことはあるか。

(指導主事) 全ての先生ではないが、教務主任会で話した。

(委員) 大変だと思うが、参事にかかっていると思う。十分に校内で検討して、子ども達にどんな力をつけたいかという話し合いが自分の頃はできていなかった。色々な視点で行っていくのが参事の努めかなと思う。参事も自負心を持ってどんどん出ていかれたらいいと思う。0歳から育ちを意識しながらやってほしい。

(委員) 各学校に関わる機会があったときに、校長がどう受け止めて、課題に対して何をしようとしているかを見ていただきたい。

(委員) 物事を成り立たせるためには、チームでやっていかないといけない。学校の中でも新しい年代に伝えていくという段階になってきていると思うが、時代によって人は変わっていく。自分は話す仕事をする際に、逆算して会場に入る。その前に色々な準備を終えてもらっておかないといけない業務もあるが、自分より遅く会場入りする方もいる。準備が十分にできず、本番を疎かに状態で行うことになってしまう。会社に言われたからではなく、自分の業務として、その都度の様子に合わせて検討しないといけない。わからないことは1人で抱えず言ってほしい、という話をしたことがある。先生もプロとして対価をもらう、責任の部分は同じ。一発本番という覚悟で望んでほしい。先生は年代もそれぞれなので、年齢が上の先生が気になることがあれば、声かけをするという関わりがあればいい。授業は1人で向かっているかもしれないが、職員室はチームでいい形でもらえばと思う。

・総合教育会議の要旨について

この後に行われる総合教育会議の議題について確認した。

(教育長) ICT 支援員の配置、タブレット・オンライン授業は継続してほしいと思う。八東小の体育館は大規模な改修が必要。監視カメラの台数が少ないため、今年度の補正予算で前倒しでお願いしたいと考えている。今後の課題として、部活動の地域展開、公民館、体育館の空調などが課題となっている。給食センターの運営は職員の問題で、高齢化しており技術の継承が課題だ。船岡ゲートボール場がかなり傷んでおり、治しようがない状態になっている。今年度、療育整体を始めたが効果があるようだ。学校に来れない子が来れるようになったり、学習に取り組めるようになったりしている。発達障がい児の保護者の困り感が、話をする中で気持ちが軽くなったり、先生と繋いでもらったりという色々な面で効果があるので、継続してお願いしたい。

(委員)療育整体は単年度か。

(教育長)今年度は半年で 200 時間。来年度は年間 400 時間計上している。なるべく多く入ってもらえる形が望ましい。郡家西小、郡家東小、八頭中に主に来てもらっている。困り感の強い学校を先行している。まずは 400 時間で様子を見る。